

# 中学校における英語調査の検討に関する 中間まとめ（案） 基礎資料

# 目次

## 1. 学習指導要領と学力・学習状況調査

- ・学習指導要領の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ・「学力の三要素」と「生きる力」について・・・・・・・・ 4
- ・言語活動の充実について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ・全国学力・学習状況調査関係・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- ・生徒の自己肯定感、社会参画に関する意識・・・・・・・・ 15
- ・H15年度教育課程実施状況調査（中学校・英語）抜粋・・ 16
- ・H17年度特定の課題に関する調査（英語「話すこと」）ポイント抜粋 17
- ・H22年度特定の改題に関する調査（英語「書くこと」）抜粋 20

## 2. 学習評価の在り方について

- ・観点別学習状況の評価について・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- ・多様な評価方法の例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
- ・英語 中学校におけるパフォーマンス等の評価の現状・・ 25

## 3. 新しい学習指導要領等が目指す姿

- ・学習指導要領改訂の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
- ・これからの教育課程の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
- ・学習指導要領改訂に係る議論に関するこれまでの経過と今後のスケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

## 4. 学習指導要領の理念を実現するために必要な方策(外国語教育関係)

- ・外国語教育に関する現状について・・・・・・・・・・・・・・ 35
- ・最近の英語教育に関する経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
- ・グローバル化に対応した英語教育改革実施計画スケジュール ・・ 37
- ・今後の英語教育の改善・充実方策について 報告（概要） ・・ 38
- ・英語教育の抜本的強化のイメージ・・・・・・・・・・・・・・ 40

- ・小・中・高等学校を通じた目標等の主なイメージ・・・・・・・・ 41
- ・高等学校 英語科目の今後の在り方について・・・・・・・・・・ 43

## 5. 英語教育の改善・充実にについて

- ・現行学習指導要領の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
- ・中学校学習指導要領の取組について・・・・・・・・・・・・ 47
- ・各学校における学習到達目標の設定・・・・・・・・・・・・ 49
- ・生徒・教員の英語力及び指導状況について・・・・・・・・ 50
- ・生徒の英語力の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
- ・児童生徒の英語に対する意識・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
- ・小学校外国語活動調査関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
- ・中学校外国語科調査関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
- ・外部試験団体と連携した英語力調査事業・・・・・・・・・・ 73
- ・英語教育改善のための英語力調査（高3対象）結果概要・・ 74
- ・秋の事業レビュー関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
- ・各試験団体のデータによるCEFRとの対照表・・・・・・・・ 81
- ・主な英語の資格・検定試験の概要・・・・・・・・・・・・・・ 82

## 6. 高大接続

- ・大学入試者選抜試験の一体的改革・・・・・・・・・・・・・・ 86
- ・高等学校基礎学力テスト（仮称）・・・・・・・・・・・・・・ 94
- ・大学入学者希望者学力評価テスト（仮称）・・・・・・・・・・ 96

## 7. 英語教育における今後の養成・研修について

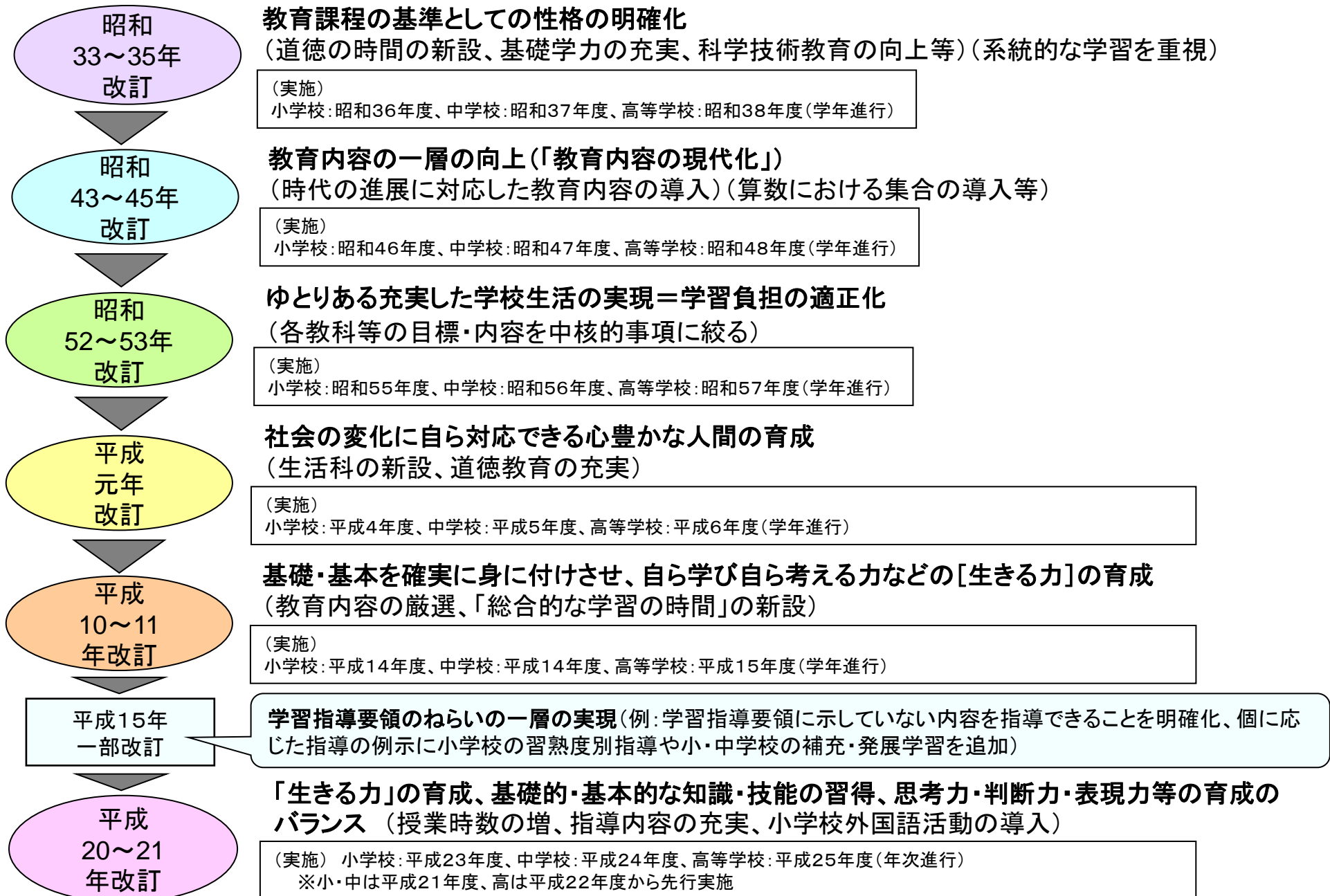
- ・教員の資質能力の向上について・・・・・・・・・・・・・・ 103
- ・新たな英語教育の実現のための研修体制（イメージ）・・ 108

## 8. 外部試験団体と連携した英語力調査事業

- ・中学校第3学年の調査結果速報・・・・・・・・・・・・・・ 112

# 1. 学習指導要領と学力・学習 状況調査

# 学習指導要領の変遷



# 「学力の三要素」と「生きる力」について

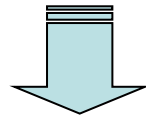
## 〈現行学習指導要領の理念〉

- 平成10～11年改訂の学習指導要領の理念は「生きる力」を育むこと
- 「知識基盤社会」の時代において「生きる力」を育むという理念はますます重要
- 教育基本法改正等により教育の理念が明確になるとともに、学校教育法改正により学力の重要な要素が規定

### ○ 学校教育法（昭和22年法律第26号）

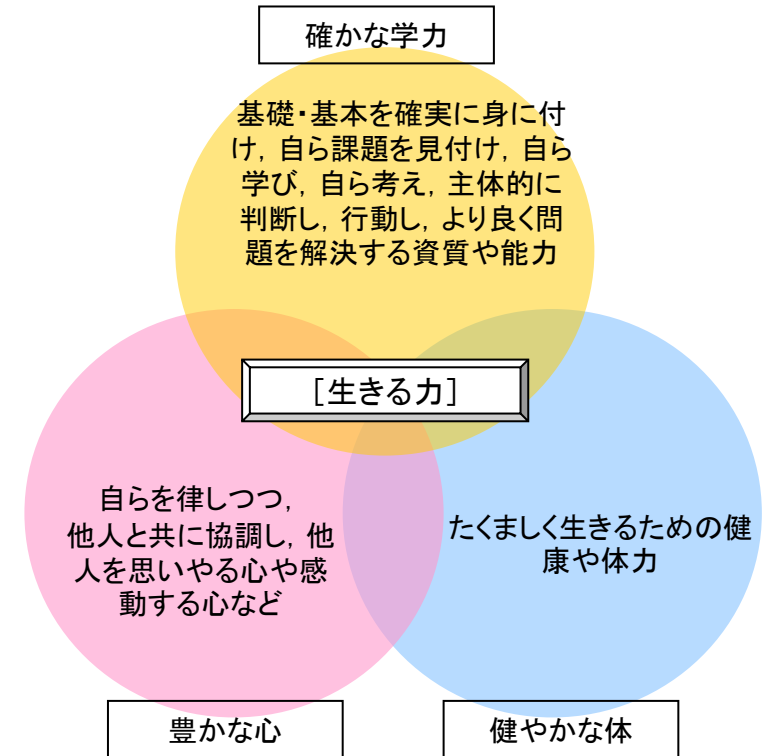
#### 第30条（略）

- ② 前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。



現行学習指導要領においては、これまでの理念を継承し、教育基本法改正等を踏まえ、「生きる力」を育成

「ゆとり」か「詰め込み」かではなく、これからの社会において必要となる知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」をより効果的に育成



# 言語活動の充実について①

現行学習指導要領では、「確かな学力」，特に「思考力・判断力・表現力等」を育み，各教科等の目標を実現するための手立てとして，言語活動の充実について規定

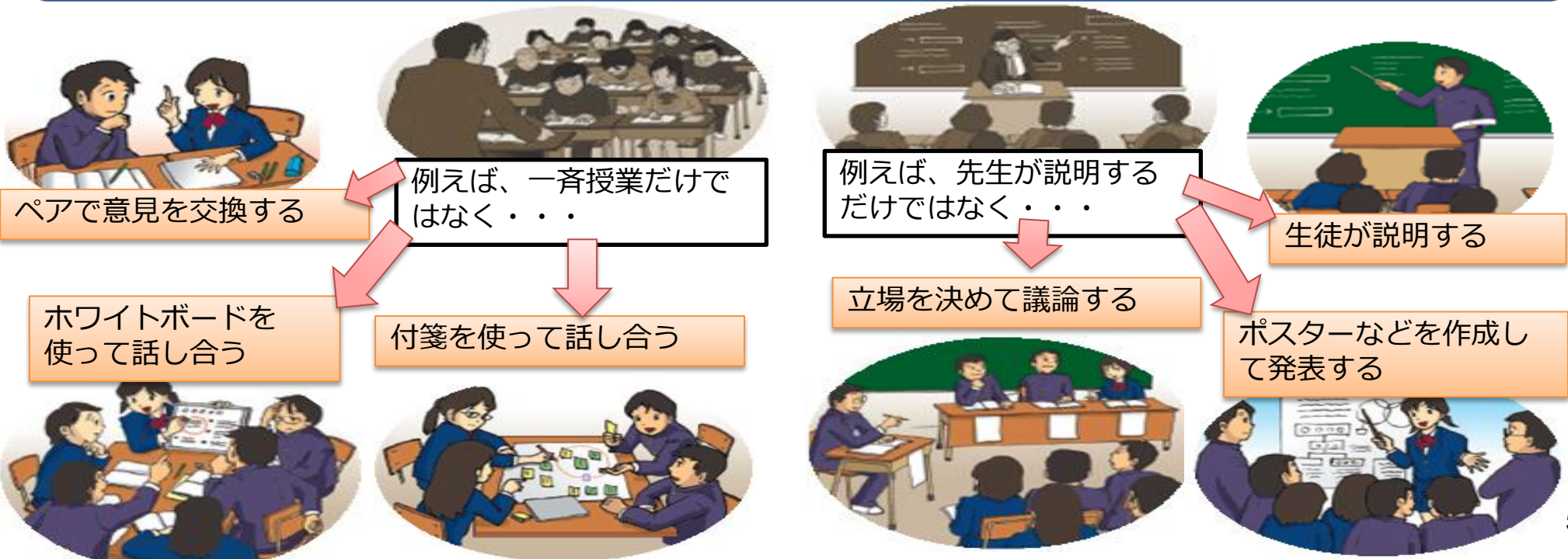
## 小学校学習指導要領 総則（中学校・高等学校においても同様）

### 第1 教育課程編成の一般方針

学校の教育活動を進めるに当たっては，各学校において，児童に生きる力をはぐくむことを目指し，創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で，基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくむとともに，主体的に学習に取り組む態度を養い，個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際，児童の発達の段階を考慮して，児童の言語活動を充実するとともに，家庭との連携を図りながら，児童の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

### 第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

2(1)各教科等の指導に当たっては，児童の思考力，判断力，表現力等をはぐくむ観点から，基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに，言語に対する関心や理解を深め，言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え，児童の言語活動を充実すること。



# 言語活動の充実について②

～言語活動の検証・改善のための有識者との意見交換（平成26年10月10日,31日）より～

## 1. 言語活動の位置付け

- 習得、活用、探究のいずれの場面においても、**各教科における学習活動の基盤**となるのは言語の能力。**豊かな心を育むことや人間関係を形成**する上でも重要。
- 平成20年中央教育審議会答申では、思考力・判断力・表現力を育むために各教科に必要な学習活動の例として右の6点を示し、**これらの学習活動の基盤となるものは、広い意味での言語**であるとした。
- こうした力の育成は、**国語科だけでなく、すべての教科で取り込まれるべきもの**。現行学習指導要領において初めて求められたものではなく、従前から、国語科をはじめ各教科等において学習活動の重要な要素として取り込まれてきた。

思考力・判断力・表現力を育むために  
各教科に必要な学習活動の例

- ①体験から感じ取ったことを表現する
- ②事実を正確に理解し伝達する
- ③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- ④情報を分析・評価し、論述する
- ⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
- ⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

## 2. 成果と課題

### <成果>

- 多くの小・中学校で言語活動を意識した活動に取り組んでいる
- 言語活動の充実が**児童生徒の学力の定着に寄与**している  
(全国学力・学習状況調査の結果)

### <課題>

- 言語活動についての**目的意識**や、教科等の**学習過程における位置づけが不明確**であったり、指導計画等に効果的に位置付けられていないことがある
  - ・単なる話合いにとどまり形骸化している例
  - ・言語活動を行うことが目的化している例 など
- 言語活動を行うことに負担を感じている教師や、**時間を確保することが困難と**考えている教師が**少なくない**

## 3. 言語活動の今後の方向性

- 各教科等の教育目標を実現するため、**見通しを立て、主体的に課題の発見・解決に取り組み、振り返るといった学習の過程において、言語活動を効果的に位置づけ、そのねらいを明確に示すことが必要**。アクティブ・ラーニングを構成する学習活動の要素を検討する際も、**言語が学習活動の基盤となるものであることを踏まえた検討が必要**。
  - ・「その活動で何を実現しようとするのか」という観点から、授業の中での言語活動の位置付けを一層明確にすること
  - ・数学的活動や、理科や社会などの問題解決的・探究的な活動など、各教科の学習の過程において、言語活動を効果的に位置付けること
  - ・言語活動が学びを深めるものとするためには、授業の冒頭に見通しを持たせ、最後に振り返りをすることの重要性について理解を徹底することが必要
- 言語活動により**時数の確保が難しくなるという見方もあるが、学年等を超えて長期的に言語活動を行う能力の育成を積み重ねていくことにより、一層効果的で効率的な学習が可能となるという視点も重要**。  
継続して言語活動に取り組むことで、児童生徒の言語活動を行う能力が高くなるとともに、言語活動を意識することにより目標・内容と学習活動の関係が明確となり、言語活動を取り入れた方が従来よりも学習が早く進み、学習に要する時間が短縮できるという考え方を重視することが必要。
- 教員の資質向上も含め、学校が全体として取組を進められるよう、教育委員会や大学等による支援や環境整備等を行いながら、今後さらなる充実が図られるようにしていくべきである**。

## 1. 全国学力・学習状況調査の概要

### 1 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・以上の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年

### 3 調査内容

- ①教科に関する調査(国語A・B、算数・数学A・B) ※24年度・27年度は「理科」を追加。理科は3年に一度の実施
- ②生活習慣や学習習慣等に関する質問紙調査(児童生徒に対する調査／学校に対する調査)

## 2. 平成28年度調査【悉皆調査】

○ 調査日: 本体調査 平成28年4月19日(火)

経年変化分析調査 平成28年5月16日から6月30日の期間中、調査の対象となった学校が実施可能な日時

○ 国語、算数・数学の2教科での悉皆調査と抽出による経年変化分析調査を実施

## 3. 平成29年度調査【悉皆調査】

○ 調査日: 平成29年4月18日(火)

○ 国語、算数・数学を実施。

### (参考) 全国学力・学習状況調査に関する決定等

○教育再生実行会議第三次提言「これからの大学教育の在り方について」(平成25年6月28日)

『国は、全国学力・学習状況調査において理科の調査を定期的実施する』

○第2期教育振興基本計画(平成25年6月14日閣議決定)

『全国学力・学習状況調査について、国として市町村や学校等の状況を把握するとともに、全ての市町村や学校等に、全国的な状況との比較による課題把握、指導改善等を行う機会を提供するため、全数調査を継続的に実施する。あわせて経年変化分析や経済的な面も含めた家庭の状況と学力等の状況の把握・分析等が可能な「きめ細かい調査」を組み入れるなど調査の充実を図る。また、調査結果を活用した教育委員会や学校等における教育施策や教育指導の充実・改善に向けた一層の取組を促す。』



## (1) 調査内容

### ① 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 など

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

### ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語の勉強は好きですか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、携帯電話等の使用時間、読書時間、勉強時間の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携状況 など

## (2) 時間割(平成27年度)

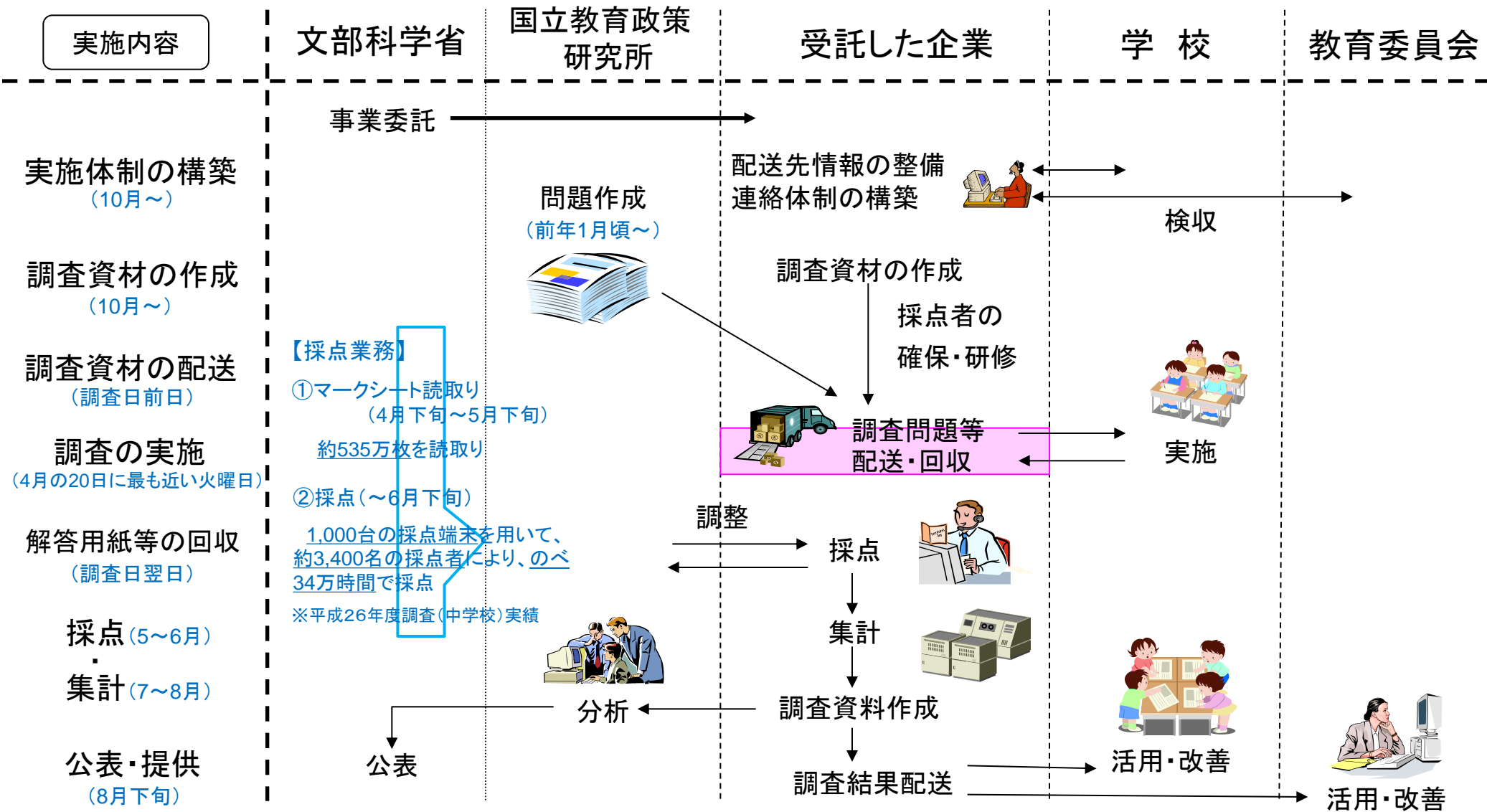
※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。  
 ① 小学校(児童質問紙は、4時限目終了以降に、各学校の状況に応じて実施。)

1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	
国語A(20分)、算数A(20分)	国語B(40分)	算数B(40分)	理科(40分)	児童質問紙(20分程度)

② 中学校(生徒質問紙は、5時限目終了以降に、各学校の状況に応じて実施。)

1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目	
国語A(45分)	国語B(45分)	数学A(45分)	数学B(45分)	理科(45分)	生徒質問紙(20分程度)

# 全国学力・学習状況調査における全体の流れ



# 標準化得点が低い県と全国平均の差の縮小 —全国学力・学習状況調査の結果から—

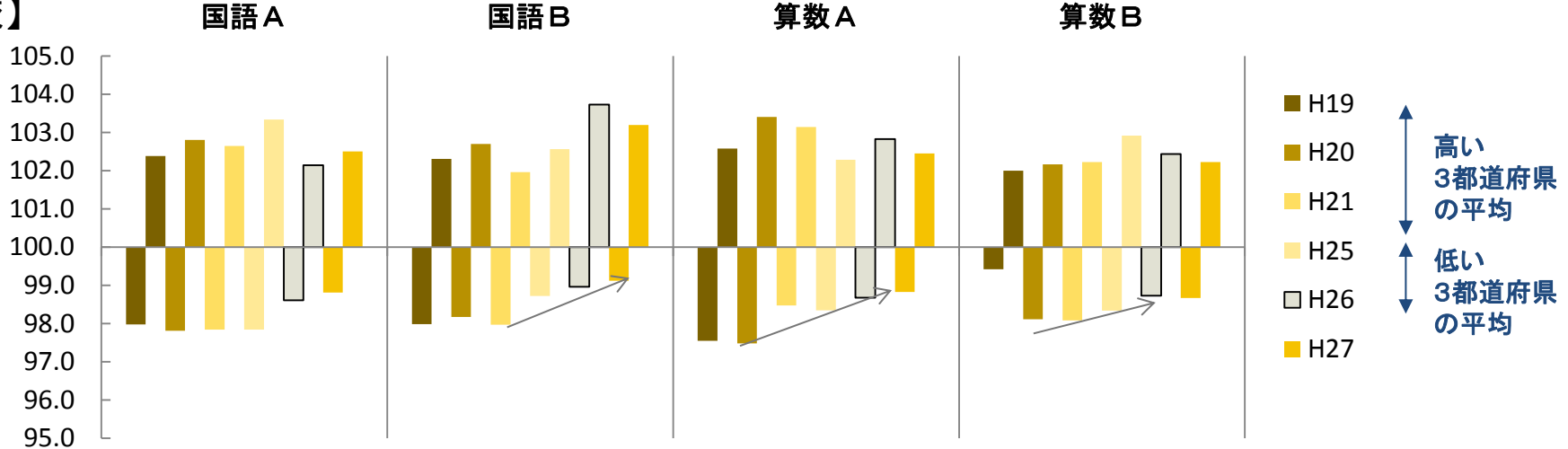
◆各年度で標準化得点(公立)が低い3都道府県の平均を見ると、全国平均との差は縮小傾向にあり、学力の底上げが進展している。

## 標準化得点の推移

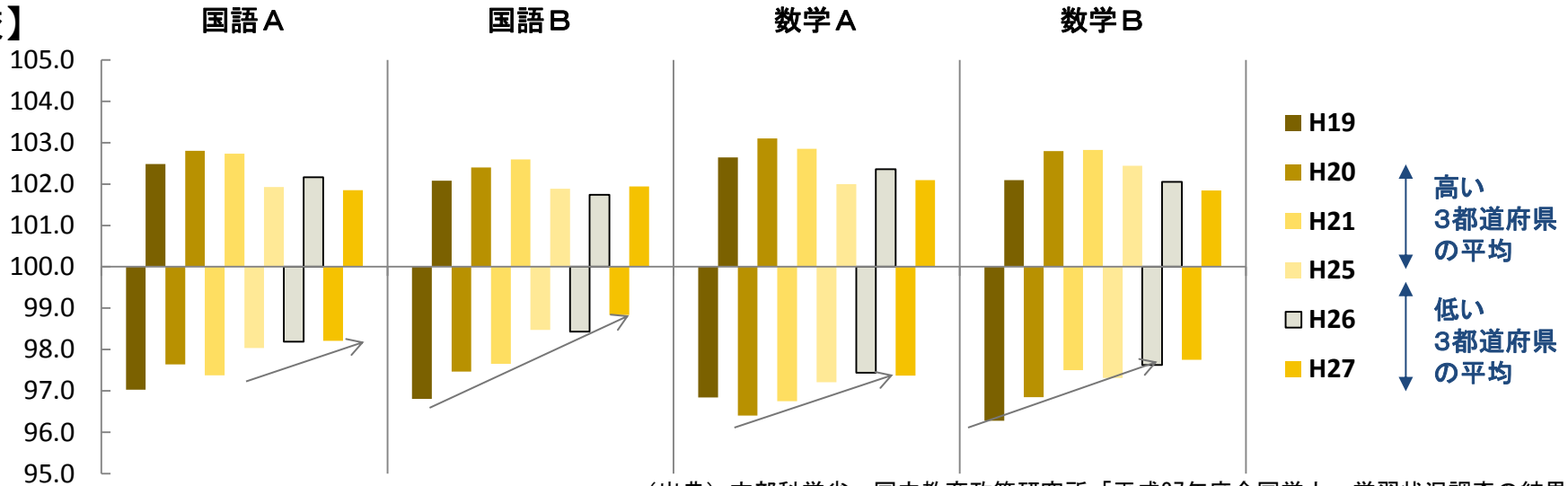
(※高い3都道府県と低い3都道府県の状況)

※標準化得点…各年度の調査は問題が異なることから、平均正答率による単純な比較ができないため、年度間の相対的な比較をすることが可能となるよう、各年度の調査の全国(公立)の平均正答数がそれぞれ100となるように標準化した得点

### 【小学校】



### 【中学校】



◆学力は改善傾向にある一方で、判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べることについて課題が指摘されている。

## 小学校

### <国語>

- 立場や根拠を明確にして話し合うことについて、発言をする際に一定の立場に立ってはいるが、**根拠を明確にした上で発言をする点**に、依然として課題がある。

### <算数>

- 図を観察して数量の関係を理解したり、数量の関係を表現している図を解釈したりすることに課題がある。
- 数量の大小を比較する際に、**根拠となる事柄を過不足なく示し、判断の理由を説明すること**について、改善の状況が見られる設問もあるものの、依然として課題がある。

## 中学校

### <国語>

- 自分の考えを表す際に、根拠を示すことは意識されているが、**根拠として取り上げる内容を正しく理解した上で活用する点**に課題がある。
- 文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことについて、説明する際に、文章や資料から必要な情報を取り出してはいるが、それらを用いて**伝えたい内容を適切に説明する点**に、依然として課題がある。

### <数学>

- 記述式問題は、特に**確率を用いた理由の説明、グラフを用いた方法の説明**に課題がある。
- 図形の性質を証明することについて、着目すべき図形を指摘することは良好であるが、**方針を立て、証明を書くこと**に課題がある。

◆判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べることについて引き続き課題が指摘されている。

## 算数・数学、国語

### 小学校

#### <国語>

- 新聞のコラムを読んで、筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成や表現の工夫を捉えることに課題がある。また、引用することに、依然として課題がある。
- 学校新聞を書く場面において、目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことに課題がある。

#### <算数>

- 基準量、比較量、割合の関係を捉え、基準量を求めることに依然として課題がある。

### 中学校

#### <国語>

- 伝えたい事実や事柄について自分の考えや気持ちを示してはいるが、根拠を明確にして書く点に、依然として課題がある。
- 目的に応じて文章や資料から必要な情報を取り出してはいるが、それらを基にして自分の考えを具体的にまとめる点に、依然として課題がある。

#### <数学>

- 記述式問題のうち、予想した事柄の説明には改善の状況が見られるが、数学的な表現を用いた理由の説明に課題がある。

◆3年ぶりに実施した理科については、前回(平成24年度)調査で見られた課題「観察・実験の結果などを整理・分析した上で、解釈・考察し、説明すること」について、課題の所在が明確になった。

## 理科

### 小学校

- 観察・実験の結果を整理し考察することについて、得られたデータと現象を関連付けて考察することは相当数の児童ができていますが、**実験の結果を示したグラフを基に定量的に捉えて考察すること**に課題がある。
- 予想が一致した場合に得られる**結果を見通して実験を構想**したり、**実験結果を基に自分の考えを改善**したりすることに課題がある。

### 中学校

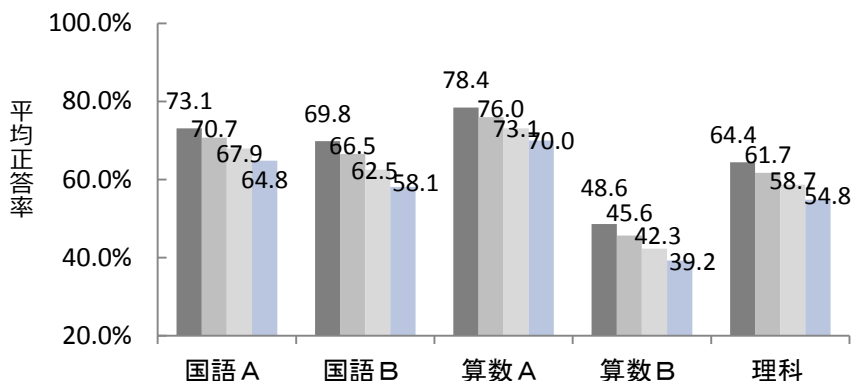
- 物質を化学式で表すことは良好であるが、**特定の質量パーセント濃度における水溶液の溶質の質量と水の質量を求めること**に依然として課題がある。
- 「化学変化を表したグラフ」や「実験結果を示した表」から分析して解釈し、変化を見いだすことは良好であるが、**実験結果を数値で示した表から分析して解釈し、規則性を見いだすこと**には課題がある。
- **課題に正対した実験を計画することや考察すること**に課題がある。

◆「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか」について、肯定的回答の方が平均正答率が高い状況であった。

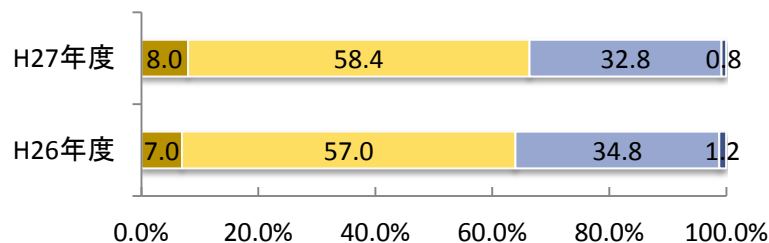
### 【質問項目】

調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思いますか。

#### 【小学校】

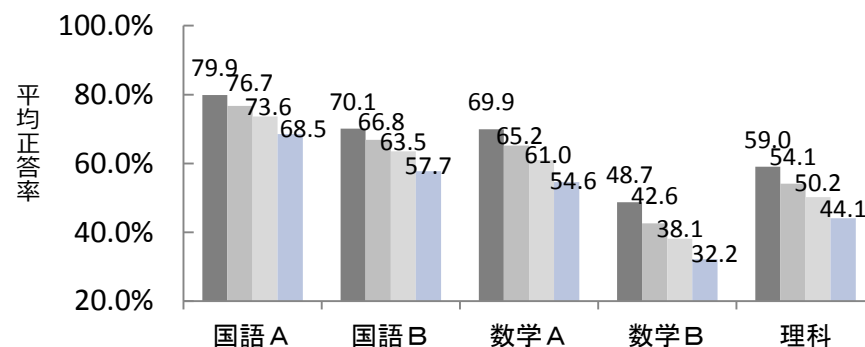


■ そのとおりだと思う      ■ どちらかといえば、そう思う  
 ■ どちらかといえば、そう思わない      ■ そう思わない

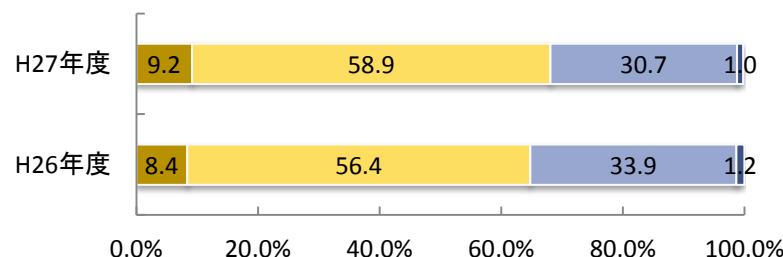


■ そのとおりだと思う      ■ どちらかといえば、そう思う  
 ■ どちらかといえば、そう思わない      ■ そう思わない

#### 【中学校】



■ そのとおりだと思う      ■ どちらかといえば、そう思う  
 ■ どちらかといえば、そう思わない      ■ そう思わない

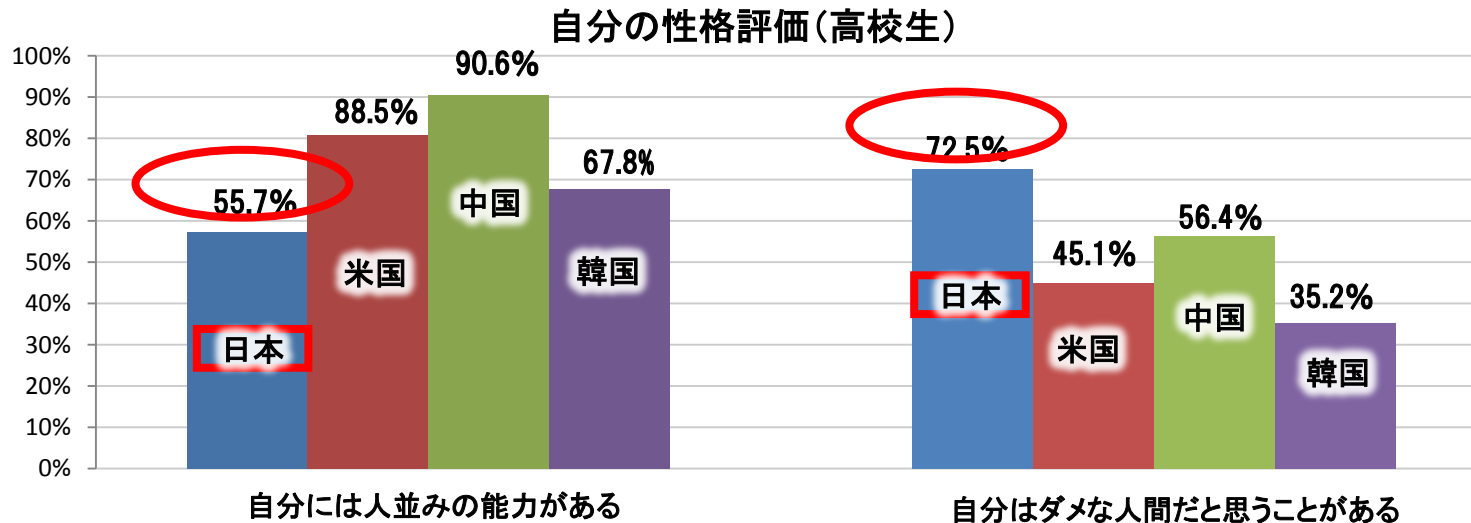


■ そのとおりだと思う      ■ どちらかといえば、そう思う  
 ■ どちらかといえば、そう思わない      ■ そう思わない

※選択肢毎の平均正答率は、選択肢の回答数が100校未満のものについては、一つ前の選択肢の回答とまとめて算出

# 生徒の自己肯定感、社会参画に関する意識

◆米中韓の生徒に比べ、日本の生徒は、「自分には人並みの能力がある」という自尊心を持っている割合が低く、「自らの参加により社会現象が変えられるかもしれない」という意識も低い。

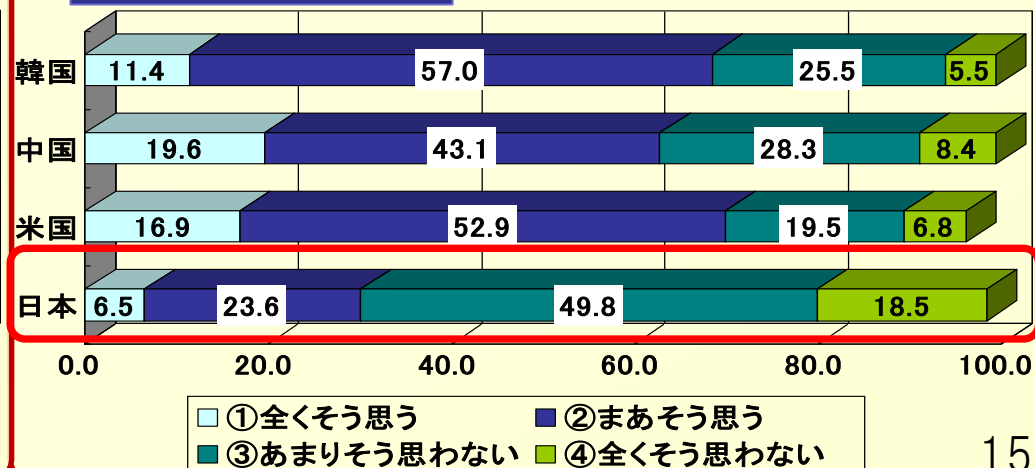
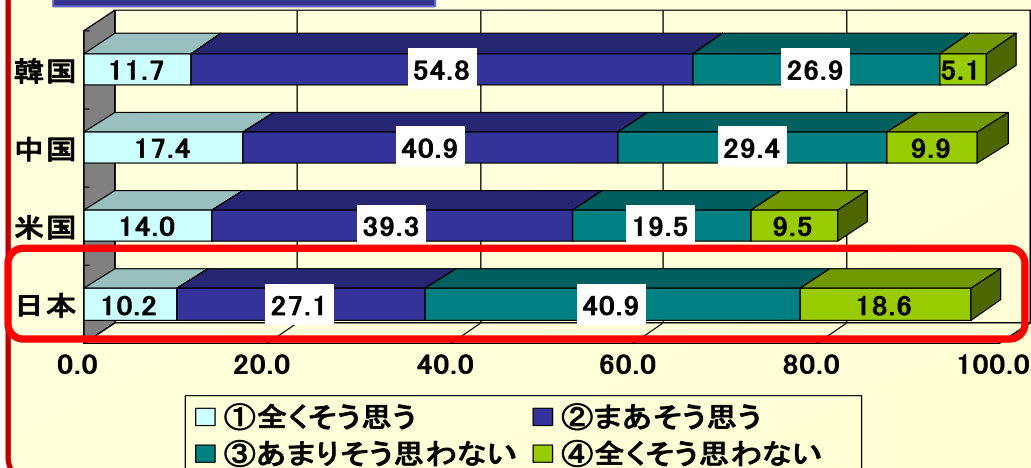


(出典)  
 (財) 国立青少年教育振興機構  
 「高校生生活と意識に関する調査報告書」(2015年8月)より  
 文部科学省作成

【問33-2】私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない

中学生

高校生



(出典) (財) 一ツ橋文芸教育振興協会, (財) 日本青少年研究所「中学生・高校生の生活と意識 - 日本・アメリカ・中国・韓国の比較 - (2009年2月)」より文部科学省作成



## 調査結果の概要

### 【聞くこと】

- 「応答問題」では、肯定的に決まった応答表現や、Where や Whoseを用いた疑問文に対する応答などにおいて、前回の同一問題の通過率を上回った。
- 所有代名詞や否定文で応えること、文形式ではなく内容に応じて応える問題、申し出や依頼に対する応答などは、定着が十分ではないと考えられる。
- 「詳細理解問題」では、数字の聞き取りや聞いた英語を視覚的に絵と結び付けやすい問題については、前回の同一問題の通過率を上回った。
- 前置詞の意味や後置修飾の意味のとらえ方、不定詞の理解、多くの情報を整理して理解することには課題があると考えられる。

### 【読むこと】

- 「詳細理解問題」では、文の意味内容が直接的に絵に結びつく問題は、前回の同一問題の通過率を上回った。
- 第3学年では設定通過率を上回るまたは同程度と考えられる問題数の合計が半数未満であった。特に、前置詞の理解、連語の意味、いくつかの情報を整理して正確に内容を読みとることなどにおいて課題がある。
- 「概要・要点理解問題」では、書かれた情報を整理して、発話の意図をとらえる問題は、前回の同一問題の通過率を下回った。
- 「言語使用に関する知識理解問題」で、日常的な慣用表現は定着が見られる。

### 【書くこと】

- 「トピック指定問題」では、まとまった内容の文章を書くことが弱く、通過率が設定通過率を下回った。be動詞と一般動詞の併用や、代名詞の変化ができていない誤答が目立つとともに、無解答率が高い。
- 「条件指定問題」では、例文を参考にして紹介文を書く問題や英語のメモをもとに手紙を完成させる問題で、前回の同一問題の通過率を上回った。
- 「文構造問題」では、where で始まる疑問文などの問題で、前回の同一問題の通過率を下回った。また、後置修飾、不定詞などの構造について課題がある。

## 「話すことに関する調査」を実施

- イラストを提示したり、音声を聞かせたりして、生徒の発話や応答を録音し、評価。
  - 英語学習に対する意識や学習習慣などに関する質問紙調査も実施。
- 全国的に教育課程の実現状況をみるための、「話すこと」に焦点を当てた調査は、初めての試み

### 【調査対象】

- 調査対象学年 中学校第3学年
- 調査実施期間 平成17年11月～12月
- 調査実施学校数及び生徒数 33校 1,090人
- 調査内容

### ■「スピーキングテスト」

- 質問紙調査(生徒及び教師)



## 結果のポイント

- 日常生活に関わる基本的な単語の発話及び発音は良好
- 相手の話しかけ(質問)に対し、状況に即して適切に英語で応答する能力は、定型表現を用いた応答については身に付いている。
- 自分の考えや気持ちなどが聞き手に伝わるように話す力に課題

話しかけ(質問)の内容を聞いて理解し、それに合った内容を聞き手に正しく伝える力  
(Section 3)

絵を見て、その内容についての質問に答える問題では、正答率は約6割。  
定型表現(天気)は正答率が高いが、ものの値段、行為や数については課題。

問題 話しかけに対して、  
英語で答えてください。



正答例 It's eight hundred yen.

	問題		正答率	無解答
1	How's the weather in New York?	天気	77.7%	12.5%
2	How many English classes do you have in a week?	数	57.6%	35.5%
3	You look sleepy. What did you do last night?	行為	55.8%	37.1%
4	Where is the cat?	場所	61.5%	25.4%
5	Excuse me. How much is that bag?	値段	53.8%	31.9%

指導の改善にむけて

- 定型としての対話練習ばかりでなく、意味を考え、正確に伝える練習が大切。

## 自分の考えや気持ちなどが聞き手に伝わるように話す力 (Section 4)

「好きな季節」について、その季節を選んだ理由とその季節にどんなことをしたいかなどについて話す問題では、正答率は約3割。無解答率は約1割。

問題		
テーマ:好きな季節 ○ 選んだ理由 ○ どのようなことをしたいか	話の内容と話の情報量を満たしているもの (例) I like winter in the seasons because my birthday is in winter and I like snow a lot. And I like to ski and I like to Yukigassen with my friends. And the Christmas is in winter, so I like it because I can have much presents. So I like winter a lot.	32.2%
考えてください	話の内容は満たしているが、話の情報量を満たしていないもの (例) I like summer because I like summer vacation. I want to swim in the sea.	
話してください。	指示された事項の一部についてしか話していないもの (例) I like summer because I like swimming.	56.0%
	発話がないもの	11.8%

指導の改善にむけて

- 日頃から様々なトピックで練習が必要。文法や語いなどの定着を図ることも大切。

# 平成22年度特定の課題に関する調査（英語：「書くこと」）抜粋

国立教育政策研究所

- 調査対象学年／中学校第3学年
- 調査実施日／平成22年11月8日～11月19日
- 調査実施学校数及び生徒数／101校（約3,300人）  
全国の国公私立中学校から無作為抽出

## 調査結果における主な課題と指導の改善事項

調査結果における主な課題

指導の改善事項

①文字、符号の使い方、語と語の区切り 問題 1…p. 8

- 呼びかけの文において、符号「!」と「?」が必要となる位置を判断し、適切な符号を用いることができなかった生徒の割合は約7割

- 普段の指導の中で、文意や読み手を意識して符号を活用させる機会を増やすなど

②語と語のつながり（文の構造） 問題 5…p. 12, 16

- 後置修飾（前置詞句の形容詞的用法）における語句整序の問題の通過率は約4割
- 疑問文や否定文をコミュニケーションの中で正しく使うことが十分身に付いていない

- 日本語との対比の中で語の配列の違いにふれながら書かせ、後置修飾を使って身の回りのものを表現させるなど
- 場面設定を明確にし、対話や文章のながれにふさわしい文形式や時制を考えさせるなど

①読んだ文章に関して自分の意見・感想を書く力 問題3…p.23

● 読み取った内容に関して、書きたい内容を適切な語彙や文の構造が分からず書けなかった、と回答した生徒の割合は約3割

● 自分の意見・感想等を書くために必要となる語彙や文の構造等の知識を深めるとともに、読み取った文章中の表現を活用して書かせるなど

②資料・状況を基に自分の意向を正しく伝える文章を書く力 問題6…p.27

● 与えられた資料・状況のみを基に（日本語の指示なし）内容を考えて書けた生徒の割合は約3割

● 自分の意向を伝える内容が書くことができたが、正しく伝わるように表現することができなかった生徒の割合は約2割

● マッピングを取り入れ思考の活性化を図った上で、アイデアの取捨選択を行わせるなど

● ペアやグループでメモや手紙の交換を行い、書かれた内容がどのように伝わっているのかを確かめさせるなど

③まとまった内容の文章を書く力 問題4・7…p.30,34

問題4

● 誤答には、文構造等の誤りを含むものが多い

問題7

● まとまりのある内容の文章を書けた生徒のうち、文と文のつながりを工夫して展開して書くことができなかった生徒の割合は約7割

● 文構造等を繰り返し指導したり、まとめて取り扱ったりして、理解の体系化を図り、適切な表現を選択させるなど

● 文の羅列に対して、内容に一貫性をもたせるように配列を考えるとともに、代名詞やつなぎ言葉などを効果的に使って文章にさせるなど